

令和元年6月18日現在

機関番号：13301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2018

課題番号：17K17754

研究課題名(和文) 古代マヤ文明南西周縁域の広域考古人骨研究

研究課題名(英文) Regional Bioarchaeology in the Southwestern Borderlands of the Preclassic Maya

研究代表者

鈴木 真太郎 (Suzuki, Shintaro)

金沢大学・国際文化資源学研究センター・客員研究員

研究者番号：80767757

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：グアテマラ南海岸地方にあるシンカベサス遺跡の考古人骨群を中心に研究をおこなった。同じく南海岸地方でより時代の古いレイノサ遺跡と、ホンジュラス西部にあり時代の新しいコパン遺跡と、それぞれ多角的に比較検証をすることで、文明黎明期の文明周縁地に関する重要な所見を得ることができた。それは同地における多様性と活発な移民流動である。ライフスタイルや民族性を異にする多様な集団が動き交わる中で、のちに隆盛を極める古代マヤ文明の根幹が形成されていったのであろう。

研究成果の学術的意義や社会的意義

遠く古代マヤ文明を対象とした外国考古学で、特に専門性の高い考古人骨の研究を日本の科学研究費で進められたことの学術的、社会的意義は極めて大きい。日本人研究者による新大陸考古学への進出は盛んであり、その研究も国際的に高い評価を得ている。その一方で考古学における最重要文化遺産の一端である古人骨に関しては、体系的な研究が極めて遅れている。依然、日本の外国考古学研究における隙間分野と言わざるを得ない。今後のより活発な研究が期待される。

研究成果の概要(英文)：Ancient human skeletal remains from Sin Cabezas site, from the Guatemalan Southern Coast, were studied. Through the careful comparisons with Reynosa site, located in the same coastal region but dated with an earlier chronology, and Copan, a well-known Classic Maya site in Honduras, an ethnic diversity and active migration dynamics have been featured. We believe that an important component for the development of the Ancient Mayan Civilization was energetic interactions among diverse human groups.

研究分野：人文学

キーワード：自然人類学 考古人骨研究 古代マヤ 古代メソアメリカ 古代アメリカ 糧食文化 移民動態 紀元前後

1. 研究開始当初の背景

メキシコ以南の中央アメリカに栄えた古代マヤ文明は、かつて「世界史に残る謎」とさえ言われた神秘の古代文明である。もちろん昨今の考古学を中心とした研究は、この神秘のベールを引き剥がし、古代マヤもすでに謎の古代文明とは言えない。しかし、こういった近年の研究には一定の、偏重とも言える、傾向があり、その傾向からいわば取り残されてしまっている地域が、古代マヤ文明の南西周縁部にあたるグアテマラ南海岸地域である。同地域における古人骨の研究は特に遅れていた。1970年代から1990年代にかけて行われた発掘で、多くの古人骨が記録されてはいたが、当時は安定同位体研究など多様な理化学分析技術が開発される前であったため、最新のバイオアーキオロジー（生物考古学）の観点からすると、同地の考古人骨群はほぼ“手付かず”の状態であった。

2. 研究の目的

古代マヤ文明の最盛期は「古典期」（西暦200～900年頃）と呼ばれる時代である。この時期、グアテマラのペテン地方を中心に強大な国家が成立し、マヤ文字で記された歴史碑文が、神聖王と呼ばれた各地の王たちの栄枯盛衰を記録している。こういった歴史碑文の解読や神聖王たちが眠る巨大墳墓の発掘が昨今のマヤ考古学における花形の一端である。一方、本研究では「先古典期」と呼ばれるマヤ文明黎明期中期から後期（紀元前500～紀元前後頃）に焦点を当て、特に周縁地から文明発達の過程に関する理解を進める。「最盛期」における「中心地」の研究だけでは捉えきれない古代文明の真実の姿を垣間見ることが本研究の目的である。

3. 研究の方法

グアテマラ南海岸地方で出土した先古典期の古人骨群を再鑑定し、さらに先進の理化学技術（特に炭素/窒素、ストロンチウムの安定同位体比分析）を用いて深く分析する。その後、時代や地域の異なる考古人骨群と比較検証することで、「黎明期」における「周縁地」の様態を理解し、古代マヤ文明の発達過程を考察する。

4. 研究成果

（1）当初の予測と異なった点、そこから得られた利点

事前に報告書等で確認していたものと実際に現地で見るとの相違が、考古人骨群の状況が保存状態や規模の面で異なっていた。そのため研究の性格として複数遺跡出土の考古人骨群を広く浅く研究するというよりは、保存状態も良好で規模も大きいシンカベサス考古人骨群に特に焦点を絞るものとなった。この結果、シンカベサス遺跡で腰を据えたより深い鑑定・分析が可能になり、先行研究と同様の深度でより細密に比較・検証することが可能になった。

（2）古代都市シンカベサスに暮らした人々の様相

概ね定住農耕を営む集団であるが、文明最盛期の大都市コパンとはライフスタイルがだいぶ異なっていた。コパンで見られた明白な分業・専業が進んでおらず、男女を問わず「できることをできる人が行う」全員参加型の社会であったようだ。一方で古典期マヤと同様の特徴も認められた。トウモロコシに依存した多様性の乏しい糧食文化と活発な移民流動である。また活発な移民流動と呼応するように多様な民族性も確認された。様々な形態の頭蓋変形が、変形なしのケースも含め、混在しており、今後は「多民族性」がシンカベサスという街の市井、さらにはグアテマラ南海岸地方を描写する上でのキーワードとなってくる可能性も考えられる。

(3) レイノサ遺跡の特異性

本研究の比較検証を通し、先行研究で取り扱ったレイノサ考古人骨群の特異性が浮き彫りになった。時代、地域を異にするシンカベサスとコパンの間で認められた“汎マヤ文明的”とも言える特徴（食文化、移民流動）が、レイノサ遺跡で認められないのである。これにより考古学的な見地から示唆されていた「レイノサ考古人骨群は特殊な背景を持った限定的な集団埋葬である」という可能性が高まった。

(4) 古代マヤ文明の発達過程理解における寄与

活発な移民流動が先古典期という文明黎明期から認められた意義は大きい。古典期コパンで確認されたほど大規模な移民ネットワークではないが、少なくとも海岸線に沿った移民、グアテマラ高地からの山岳地帯を跨いだ移民が確認されている。古代マヤ文明の発展において、多様な土地から多様な人々が移民し交流する、という事象はとても重要な要素であったようだ。

(5) 他地域における海岸部の考古人骨群の研究への寄与

本研究における海岸地域の考古人骨研究に端を発し、他地域における海岸部考古人骨群の再検証を開始することができた。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計4件)

- ① Suzuki Shintaro & Maggiano Isabel, 「Histological age assessment in a prehispanic Maya sample from Xcambó, Yucatan, Mexico: Benefits and limitations」、『Journal of Archaeological Science: Reports』、ELSEVIER、Vol. 22、pp. 214-222、2018 (DOI.org/10.1016/j.jasrep.2018.09.029) 査読あり
- ② Suzuki Shintaro, Sandoval Molina Andrea & Mejía Héctor, 「Enigma de la incrustación dental: una nueva perspectiva desde Reynosa, Escuintla」、『XXXI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala 2017』、Asociación Tikal、pp.1043-1056、2018 査読なし
- ③ 鈴木真太郎、 「古代糧食文化復元のための生物考古学：マヤ文明黎明期におけるグアテマラ南海岸地方からの展望」、『金沢大学考古学紀要』、金沢大学、39号、pp. 81-93、2018 (DOI.org/10.24517/00050691) 査読あり
- ④ Suzuki Shintaro, & Mejía Héctor, 「Paleodieta Preclásica en la Costa Sur de Guatemala: una perspectiva bioarqueológica desde el sitio Reynosa, Escuintla」、『XXX Simposio de investigaciones arqueológicas en Guatemala 2016』、Asociación Tikal、pp. 893-901、2017

[学会発表] (計8件)

- ① Suzuki Shintaro、 「Vida y muerte en la Costa Sur de Guatemala: perspectiva tafonómica de los entierros del horizonte preclásico」、『III Coloquio Internacional de Bioarqueología: Aplicaciones de arqueotematología al estudio mortuario en Mesoamérica』、Mérida、México、(Nov. 2018) 査読あり
- ② Sandoval Andrea, Suzuki Shintaro & Mejía Héctor, 「Preclassic Mesoamerican Dental Inlay: Study of the Raw Material by SEM-EDS」、『42nd International Symposium on Archaeometry』、Mérida、México、(May. 2018) 査読あり

- ③ 鈴木真太郎、「古代マヤ文明周縁域の広域考古人骨研究」、『サントリー文化財団 若手研究者のためのチャレンジ研究助成中間報告会』、東京、2017年12月 査読なし
- ④ 鈴木真太郎、「古代マヤ文明黎明期におけるトウモロコシ食文化とニシュタマリゼーションの発生起源についての考察」、『第43回金沢大学考古学大会』、金沢、2017年11月 査読なし
- ⑤ 鈴木真太郎、「古代メソアメリカにおける埋め込み式歯牙装飾の起源について：グアテマラ共和国、エスクイントラ県、レイノサ遺跡からの考察」、『第2回金沢大学人間社会研究域附属文化資源学研究センター金沢マヤシンポジウム』、京都、2017年11月 査読なし
- ⑥ Suzuki Shintaro、「La bioarqueología en Centroamérica: deficiencias y potenciales」、『XIX Coloquio Internacional de Antropología Física Juan Comas』、Morelia, México、(Oct.2017) 査読あり
- ⑦ Suzuki Shintaro, Sandoval Andrea & Mejía Héctor、「Enigma de la incrustación dental: una nueva perspectiva desde Reynosa, Escuintla」、『XXXI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala』、Guatemala、(Jul.2017) 査読あり
- ⑧ Suzuki Shintaro、「La arqueología del pueblo: la narrativa de los esqueletos」、『XII Congreso de Estudios Mayas: Pueblos, territorio u descolonización』、Guatemala、(Jul. 2017) 査読なし

6. 研究組織

主要研究協力者

研究協力者氏名：トマス・バリエントス

ローマ字氏名：(Tomás, Barrientos)

所属研究機関名：デルバジェ大学（グアテマラ）

研究協力者氏名：アンドレア・サンドバル

ローマ字氏名：(Andrea, Sandoval)

所属研究機関名：デルバジェ大学（グアテマラ）

研究協力者氏名：エクトル・メヒア

ローマ字氏名：(Héctor, Mejia)

所属研究機関名：トレクサ社（グアテマラ）

研究協力者氏名：ダグラス・プライス

ローマ字氏名：(Douglas, Price)

所属研究機関名：ウィスコンシン大学（米国）

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。